

2025年9月期第3四半期
決算説明資料

株式会社 EduLab

東証グロース市場 証券コード：4427

2025年8月14日

2025年9月期 第3四半期実績

連結損益計算書

(単位：百万円)

	24年9月期 3 Q	25年9月期 3 Q	対前年同期比
売上高	5,468	4,450	△18.6%
営業利益	△258	187	—
営業外収益	316	54	
為替差益	157	16	
事業撤退益	86	—	
保険金収入	—	30	
その他	72	6	
営業外費用	175	89	
投資事業組合管理費	129	52	
貸倒損失	—	23	
その他	46	13	
経常利益	△118	152	—
特別利益	—	16	
投資有価証券売却益	—	16	
特別損失	46	—	
訴訟関連損失	43	—	
その他	2	—	
法人税	11	61	
非支配株主に帰属する四半期純利益	0	3	
親会社株主に帰属する四半期純利益	△178	101	—

■ 第3四半期の当社グループの経営成績は、**売上高4,450百万円**（前年同期比18.6%減）、**営業利益187百万円**（前年同期は営業損失258百万円）、**経常利益152百万円**（前年同期は経常損失118百万円）、**親会社株主に帰属する四半期純利益 101百万円**（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失178百万円）となりました。

■ **売上高**に関しましては、2024年9月期に撤退した教育プラットフォーム事業における減収の影響や、テスト運用・受託事業において2024月期に単独の委託機関として中学校事業を受託しました文部科学省による全国学力・学習状況調査を、2025年9月期には再委託機関として小学校事業を受託するなどの受託形態の変化等により、前年同期比で減少しました。一方、テストセンター事業及びAI事業は堅調に推移しました。その結果、**売上高は、前年同期比18.6%の減少**となりました。

■ 費用面では、業務委託費や人件費の削減等により**売上原価、販売費及び一般管理費が減少し**、営業利益は前年同期比で増益となりました。

■ また、第3四半期において円高の進行により、為替評価益が第2四半期に計上した97百万円から、第3四半期では16百万円と大幅に減少したため、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益は、第2四半期比で減少となりましたが、当期の営業利益の増益等により、前年同期比では増益となりました。

(単位：百万円)

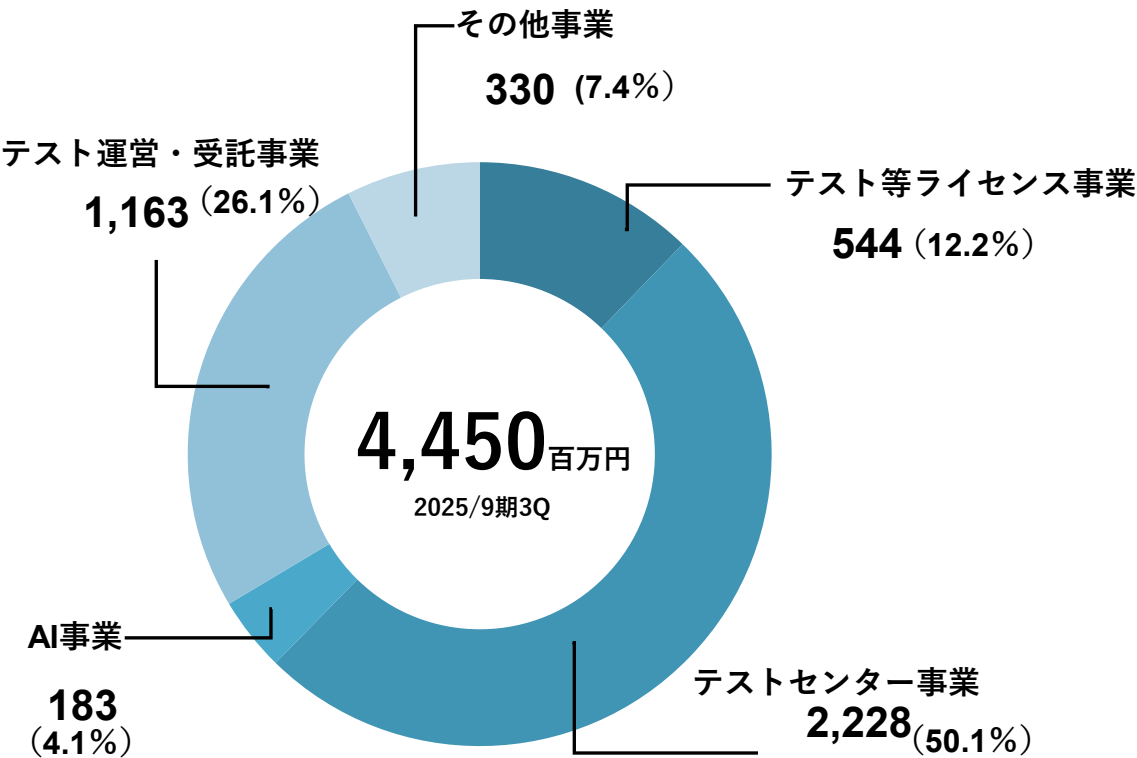
	2024年 9月末	2025年 6月末	増減額
流動資産	2,981	2,552	△429
現預金	1,671	1,544	△126
その他	1,310	966	△303
固定資産	661	848	+186
ソフトウェア仮勘定	19	60	+41
投資その他の資産	500	508	+7
その他	141	279	+138
繰延資産	1	0	△1
資産 合計	3,644	3,400	△243
流動負債	1,662	1,384	△277
有利子負債	445	281	△164
契約負債	81	91	+10
その他	1,134	1,012	△122
固定負債	215	153	△61
長期借入金	210	150	△60
その他	4	3	△1
負債 計	1,877	1,538	△338
純資産 計	1,767	1,862	+95
負債純資産 合計	3,644	3,400	△243

- 流動資産は、前連結会計年度末に比べて429百万円減少
 - 現金及び預金が126百万円減少、流動資産その他の内、売掛金及び契約資産で267百万円減少したことなどによるもの
- 固定資産は、186百万円増加
 - 固定資産その他の内、ソフトウェア127百万円、ソフトウェア仮勘定で41百万円増加したことなどによるもの
- 総資産は、3,400百万円計上し、243百万円減少
- 流動負債は、277百万円減少
 - 買掛金が49百万円、短期借入金66百万円増加した一方で、1年内返済予定の長期借入金が195百万円、一年内償還社債が35百万円、訴訟関連費用引当金237百万円減少したことなどによるもの
- 固定負債は、61百万円減少
 - 長期借入金60百万円減少したことなどによるもの
- 純資産合計は、95百万円増加
 - 当期の期間利益により、利益剰余金が101百万円増加したことなどによるもの

事業セグメント別実績

セグメント別の売上高・セグメント利益

(百万円)



注：（ ）内の数字は売上高構成比

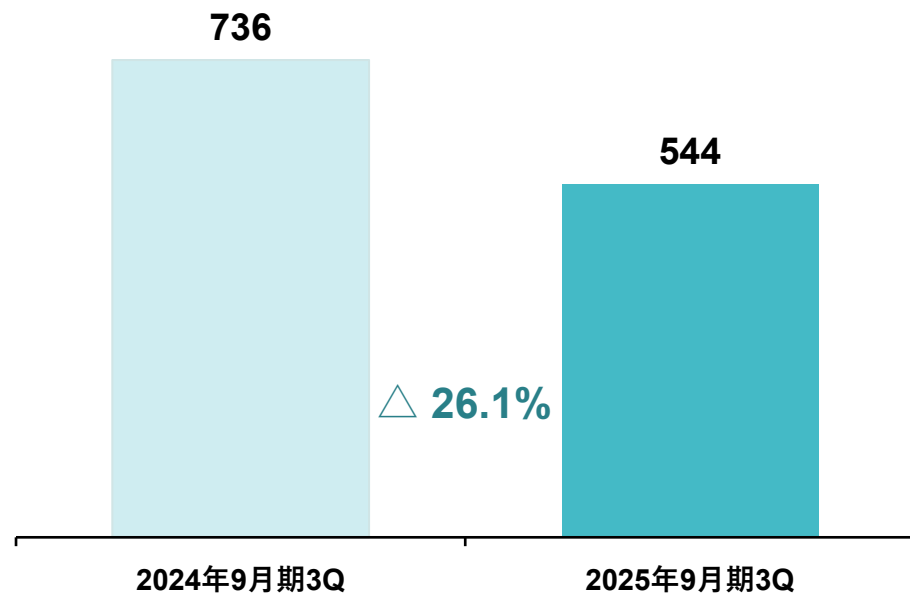
事業セグメント		24年9月期 3 Q	25年9月期 3 Q	前年対比
テスト等 ライセンス	売上高	736	544	△26.1%
	セグメント利益	185	167	△9.7%
テストセンター	売上高	2,228	2,228	△0%
	セグメント利益	214	181	△15.3%
AI	売上高	108	183	+69.3%
	セグメント利益	△49	46	-
テスト運営・受託	売上高	1,960	1,163	△40.7%
	セグメント利益	193	316	+64.2%
その他	売上高	434	330	△23.8%
	セグメント利益	△62	41	-
全社費用		△739	△566	173百万円減少

- オンライン英語テスト「CASEC」および英語スピーキングテストにかかわるライセンス収入が減少したこと、さらに一部サービスの終了に伴う減収等の影響により、売上高及びセグメント損益は減少しました。
- 上記の結果、売上高は前年同期比 26.1%減となる 544百万円、セグメント利益は前年同期比 9.7%減となる 167百万円となりました。

売上高・セグメント損益

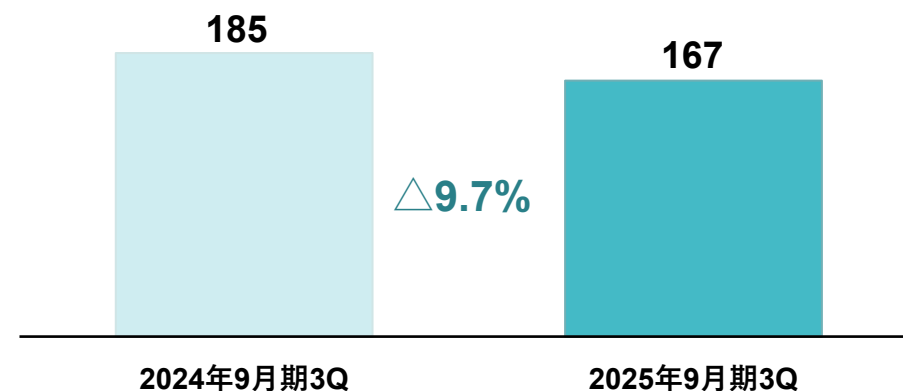
売上高

(百万円)



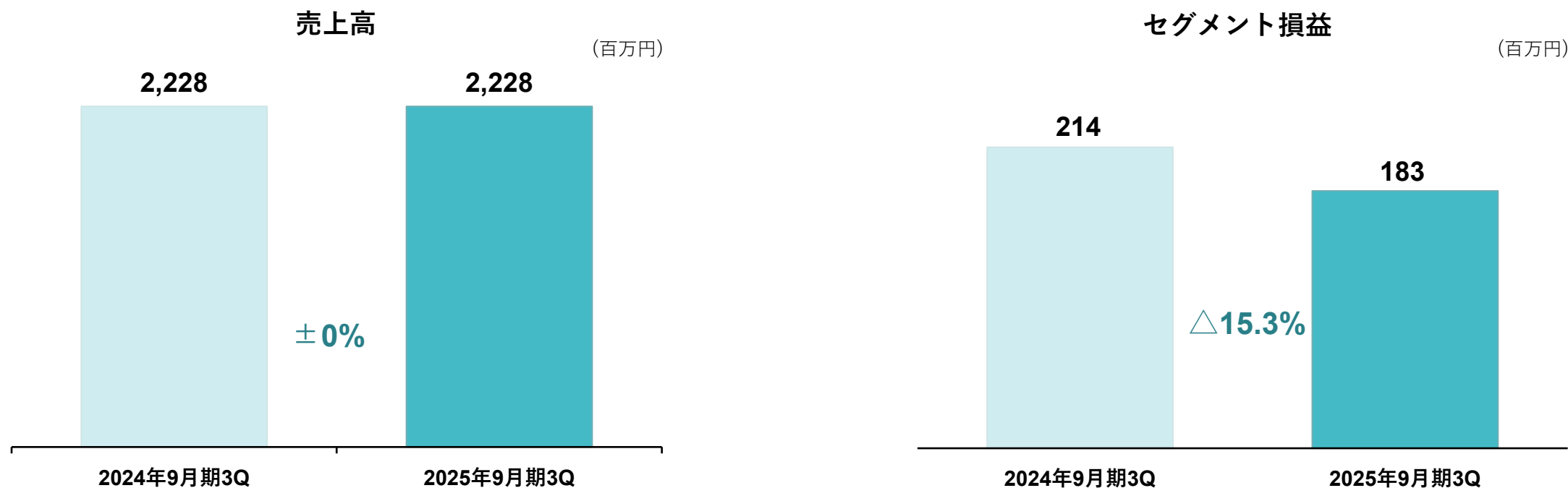
セグメント損益

(百万円)



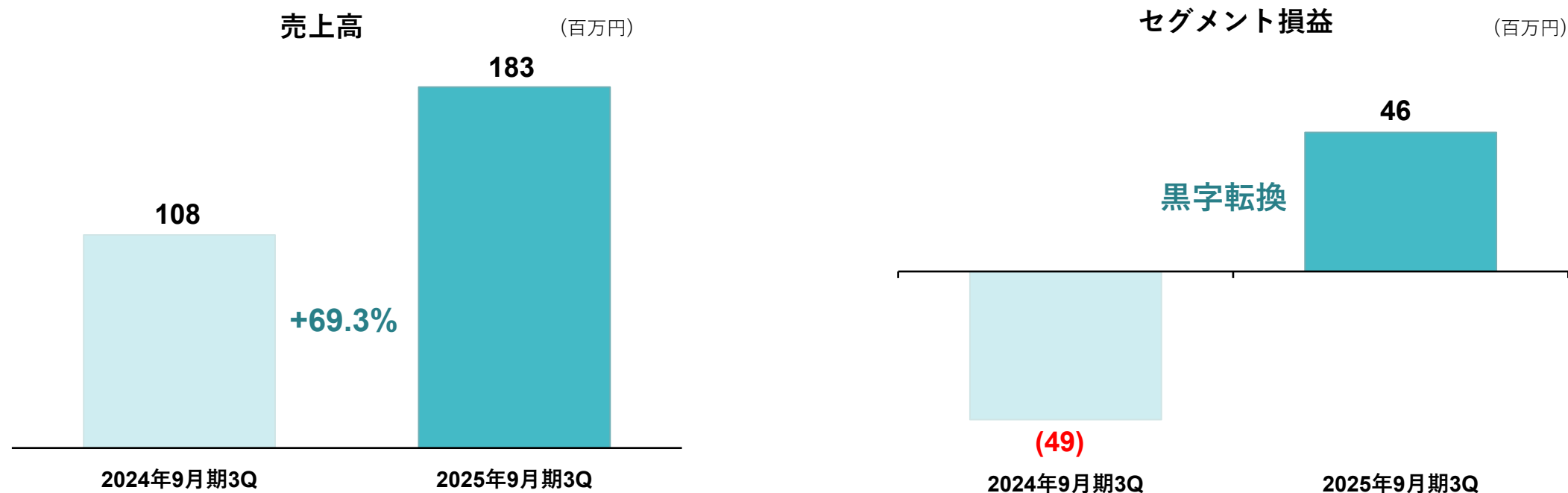
- テストセンター利用者数が安定して推移し、テストセンター利用者数は2025年9月期第3四半期累計期間で約71万人（前年同期比1.42%増）と順調に推移しました。
- 上記等の結果、**売上高は前年同期と同額の2,228百万円、セグメント利益は販管費が増加したことにより、前年同期比 15.3%減となる181百万円**となりました。

売上高・セグメント損益



- 手書き文字認識「DEEP READ」ライセンス収入が安定して推移した結果、売上高及びセグメント損益は増収増益となりました。
- 「UGUIS.AI」を2025年4月に正式リリースしました。（当会計期間の影響は軽微の予定）
- 売上高は前年同期比 69.3%増となる 183百万円、セグメント利益は前年同期セグメント損失 49百万円に対して 46百万円となりました。

売上高・セグメント損益

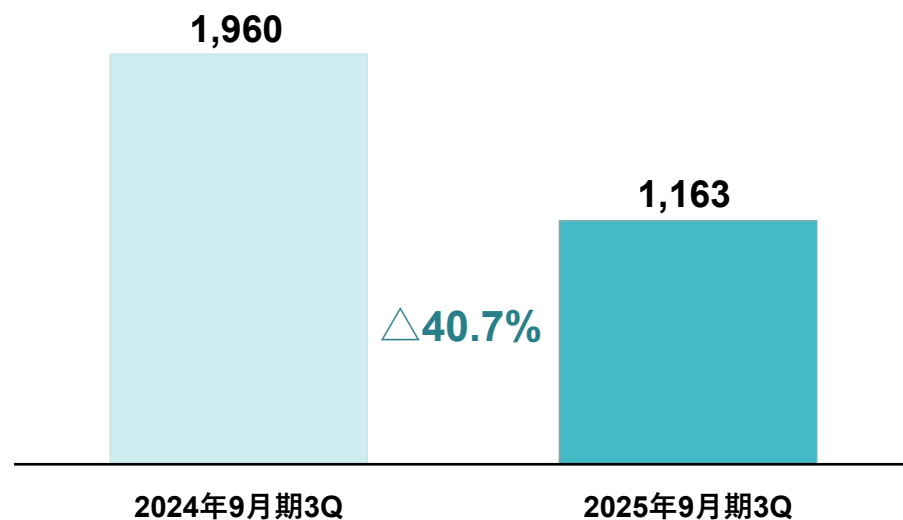


- 前事業年度には単独で委託機関として中学校事業を受託しました文部科学省による全国学力・学習状況調査事業を、当事業年度におきましては再委託機関として小学校事業を受託しました。
- 上記**受託形態の変化**等の結果、売上高は減収となった一方で、業務の内製化によるコスト削減等により、利益額、利益率ともに大幅に改善しました。**売上高は前年同期比 40.7%減となる 1,163百万円、セグメント利益は前年同期比 64.2%増となる 316百万円**となりました。

売上高・セグメント損益

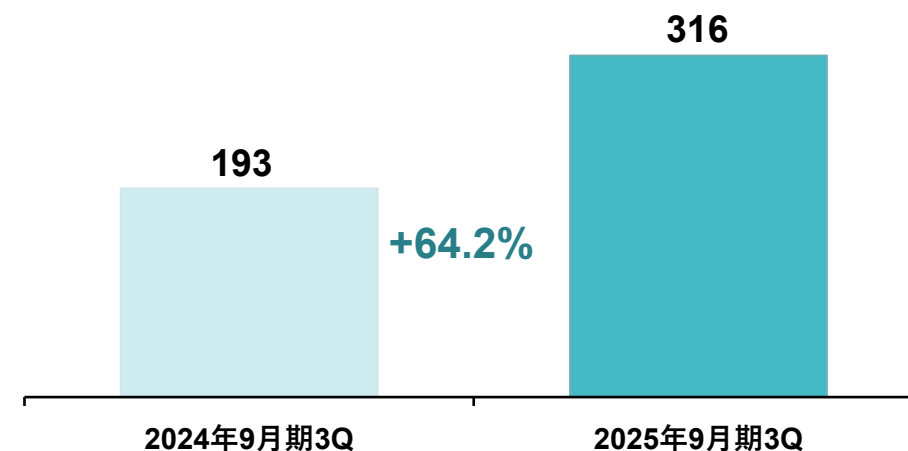
売上高

(百万円)

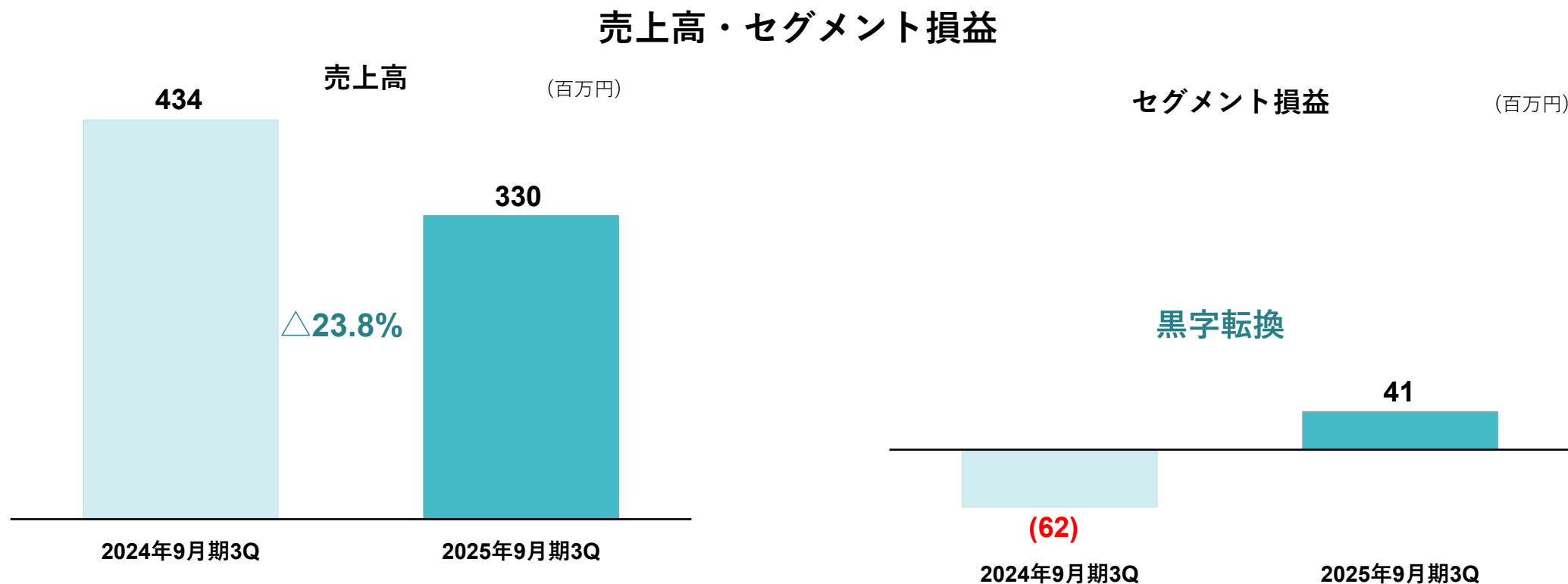


セグメント損益

(百万円)



- 2024年3月に教育プラットフォーム事業から撤退したことにより減収となりましたが、サービスを継続した広告事業は順調に推移しました。（セグメント事業名を「プラットフォーム事業」から「その他事業」に変更しております。）
- 売上高は前年同期比 23.8%減となる 330百万円、セグメント利益は前年同期セグメント損失 62百万円に対して 41百万円となりました。



通期連結業績予想

2025年9月期通期連結業績予想の修正数値(2024年10月1日～2025年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	6,000	50	10	△350	△34.25
今回発表予想 (B)	6,000	230	160	△50	△4.89
増減額 (B-A)	-	180	150	300	
増減率 (%)	-	360.0%	1,500.0%	-	
(ご参考) 前年実績 (2024年9月期)	7,141	△325	△492	△1,273	△124.61

- 上半期の堅調な業績回復を踏まえ、2025年5月14日に営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益の通期連結業績を上方修正いたしました。
当第3四半期において上記通期連結業績予想に変更はありません。
- 引き続き、中計の3つの構造改革（①事業構造改革、②コスト構造改革、③組織体制・企業風土改革）を着実に実行し、持続的成長を図ってまいります。

直近のハイライトトピックス

教育課題の解決や教職員の働き方改革、教育DXの推進に貢献

当社のグループ会社である株式会社教育測定研究所が文部科学省が実施する「セキュアな環境における生成AIの校務利用の実証研究事業」（以下「本事業」）における「生成AIの校務での活用に関する実証研究の支援・分析・成果とりまとめ、諸課題の調査・検証」業務を受託

◆事業の趣旨

子供の学びの充実や教職員の負担軽減に向けて、生成AIの活用に伴うリスクへの対応を考慮した先進的な取組を多面的に進め、好事例や留意事項の整理・発信等を通じて教育現場での効果的・適切な生成AIの利活用の実現を支援する必要があります。

特に、学校の働き方改革の観点では、教育委員会が主導する校務での生成AIの活用を促進する必要があります。本事業は、以下の3点を通じて教育現場での効果的・適切な生成AIの利活用の実現を支援するものになります。

- ・適切なセキュリティ対策の下で個人情報等重要性の高い情報を取り扱える利用環境において、ダッシュボード等のツールとの連携の検討も含め、校務で生成AIを活用する実証研究
- ・生成AIの機能を組み込ませた校務支援システムサービスの開発支援
- ・生成AIを含む教育現場でのICT活用の実態に応じたリスクアセスメント

◆株式会社教育測定研究所の役割

- ・本事業において別事業者が行う「生成AIの校務での活用に関する実証研究」及び「生成AIの校務での更なる活用に関する実証研究」への支援・分析・成果取りまとめ、諸課題の調査・検証の実施
- ・教育委員会職員や教職員への研修、サポートの実施
- ・生成AIの活用に関する効果の検証
- ・教育現場への生成AIの導入に際し教育委員会や学校に必要な制度設計の整理
- ・ユースケースやプロンプトの収集、取りまとめ

調査の円滑な推進を図り、确实かつ正確な集計作業、結果の提供に寄与

当社のグループ会社である株式会社教育測定研究所が、
スポーツ庁が実施する「令和7年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」（以下「本調査」）業務を受託

◆調査の目的

- ・国や教育委員会が全国的な子供の体力・運動能力や運動習慣・生活習慣等を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ・各学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣等を把握し、学校における体育・健康に関する指導などの改善に役立てる。

◆教育測定研究所の役割

- ・調査の実施（情報整備、調査実施環境構築、MEXCBTを使用した調査資材の設計・作成、コールセンターの設置、入力集計の実施、分析・研究作業、結果提供の作成・配送）
- ・有識者委員会の運営

調査に関する事前準備、対象校への実施支援、採点等各種成果物の提供により、調査の円滑な実施に貢献

当社のグループ会社である株式会社教育測定研究所が、国立教育政策研究所が実施する「OECD－PISA2025年本調査支援業務（2025年度）一式」（以下「本業務」）に係る業務を受託

◆PISA2025年調査の概要

PISA2025年調査は、科学コンピテンシー（中心分野）、読解力、数学的リテラシーの3分野に加え、革新分野である「ラーニング・イン・デジタルワールド（LDW）」および質問調査を対象として、2025年6月から8月にかけて、コンピュータを使用したオンライン形式により実施される予定です。PISA調査は、義務教育終了段階の高等学校1年生を対象とし、日本全国の高等学校・高等専門学校・中等教育学校後期課程から層化二段抽出法によって無作為に選ばれた約200校（学科）、約8,000人の生徒が参加する予定です。本調査の構成は、学習到達度テスト（2時間）、生徒質問調査（約35分）、ICT活用調査（約15分）および学校質問調査（約45分）となっており、いずれもコンピュータを使用して実施されます。

◆教育測定研究所の主な役割

- ・ 調査実施準備（接続検証、動作確認、マニュアル編集等）
- ・ 採点ガイドの翻訳作業および承認申請作業
- ・ 調査資材等の作成・配送・回収
- ・ 調査の実施支援、コールセンター業務
- ・ 回答の採点作業

「EduLab高校生インターンシップ2025」を実施

当社が2025年4月から6月の2ヶ月間にわたり、「EduLab高校生インターンシップ2025」を実施

◆実施背景

- ・このインターンシップは、「高校生向けの実践的なインターンシップが少ない」という実情を踏まえ、高校生自らが当社に対してインターンシップ実施の要望・提案を行い、それをもとに、当社が初めて取り組んだものになります。2024年11月から、提案者である高校生4名と共に準備を進め、提案者の同級生や社員の家族（高校生）を中心に参加者を募ったところ、多くの応募があり、12チーム、総勢約50名が2ヶ月間に亘り参加するインターンシップとなりました。

◆実施内容

- ・高校生が、日々の学習や学校生活に関する課題を特定し、その解決策を提案するというもので、それらについてのプレゼンテーションを行いました。

◆実施結果

- ・本インターンシップは、参加者の皆様から非常に前向きな評価をいただき、教育事業に従事する当社として非常に意義深い取り組みであったと、あらためて実感する機会となりました。今後も、高校生を対象とした実践的なインターンシップを継続的に実施していきたいと考えております。また、今回のプログラムにおいて学生が考案したアイデアの中には、実際の事業としての展開が期待できるものもありました。今後、社内で「事業化プロジェクト」を立ち上げ、その中にインターンシップ参加者にも継続的に関わっていただくことを検討しています。

当社は今後も、教育の当事者である学生と共に、新たな学びの機会や社会との接点を創出する先駆的な取り組みを推進してまいります。

第2四半期決算公表（2025/05/14）時までの ハイライトトピックス （ご参考）

AI活用で教育現場を本格支援

当社のグループ会社である株式会社教育測定研究所が経済産業省の「令和6年度補正予算 地域未来人材育成支援民間サービス等利活用促進事業費補助金（探究・校務改革支援補助金2025）」の事業者として採択されました。当社グループは、当該補助金の活用について募集があった学校等教育機関に対し、AI英語ライティング学習サービス「UGUIS.AI」を無償でご提供いたします。

◆募集概要

- ・対象：全国の学校等教育機関
- ・募集校数：最大50校（予定）
- ・募集期間：募集終了
- ・導入期間：2025年6月2日～2026年3月31日（予定）

◆経済産業省「探究・校務改革支援補助金2025」について

<https://tankyu-koumu.jp/index.html>

◆教育現場でのUGUIS.AI導入のメリット

英語ライティングの学習に必要な「量と質」を提供することに加え、学習者自身の探究的な学びの高度化、更には教員の教材作成、採点・添削・コメント記入等の業務効率化や省力化を支援します。

英語を書く力がメキメキ上がる「UGUIS.AI」を2025年4月25日正式にリリース！

日本の英語教育は、知識習得がメインのインプット型から、英語運用能力に求められるアウトプット型の学習に重点が移行しています。当社グループでは、「英語教育の変化に伴って生じている指導者や学習者の様々な課題を解決する」ことを目的に英語ライティング学習サービス「UGUIS.AI」のβ版を2024年3月22日にリリース。以降、たくさんのお問い合わせを頂戴し、多くの学校や塾でトライアルを行っていただきました。そこで得た貴重なご意見などを踏まえ、機能を改善・追加し、今般正式にリリースしました。リリースに向けては、学校や塾、企業等での団体利用と、個人利用の両サービスがご提供できるような機能を追加し、より多くの方にご利用いただけることを目指しました。



UGUIS.AIを使うと
英語で書く力がぐんぐん伸びる！

◆UGUIS.AIの主な特徴

- 学習機能とコンテンツ**
AIが高品質な問題を数に制限なく自動生成し、容易に繰り返しの学習を可能にします。
- AI即時採点とフィードバック**
AIによって「高品質で安定した採点・添削・具体的なアドバイス」が、何度でも、即時に提供され、個別指導の負担を軽減し、自主学習でも上達を促します。
- AIチャットのUGUIS先生**
まるで先生と一対一で学習しているかのように、学習者は個別の質問が可能となり、学習者の「わからない」を解消します。
- 団体向け管理機能**
生徒ごとの利用状況や学習履歴、各課題への取り組み状況を一目で把握でき、先生の負担を大幅に軽減します。

「わからない」をすぐ解決！AIチャットのUGUIS先生



株式会社増進会ホールディングスとの 資本業務提携の進捗状況



Z-KAI Group



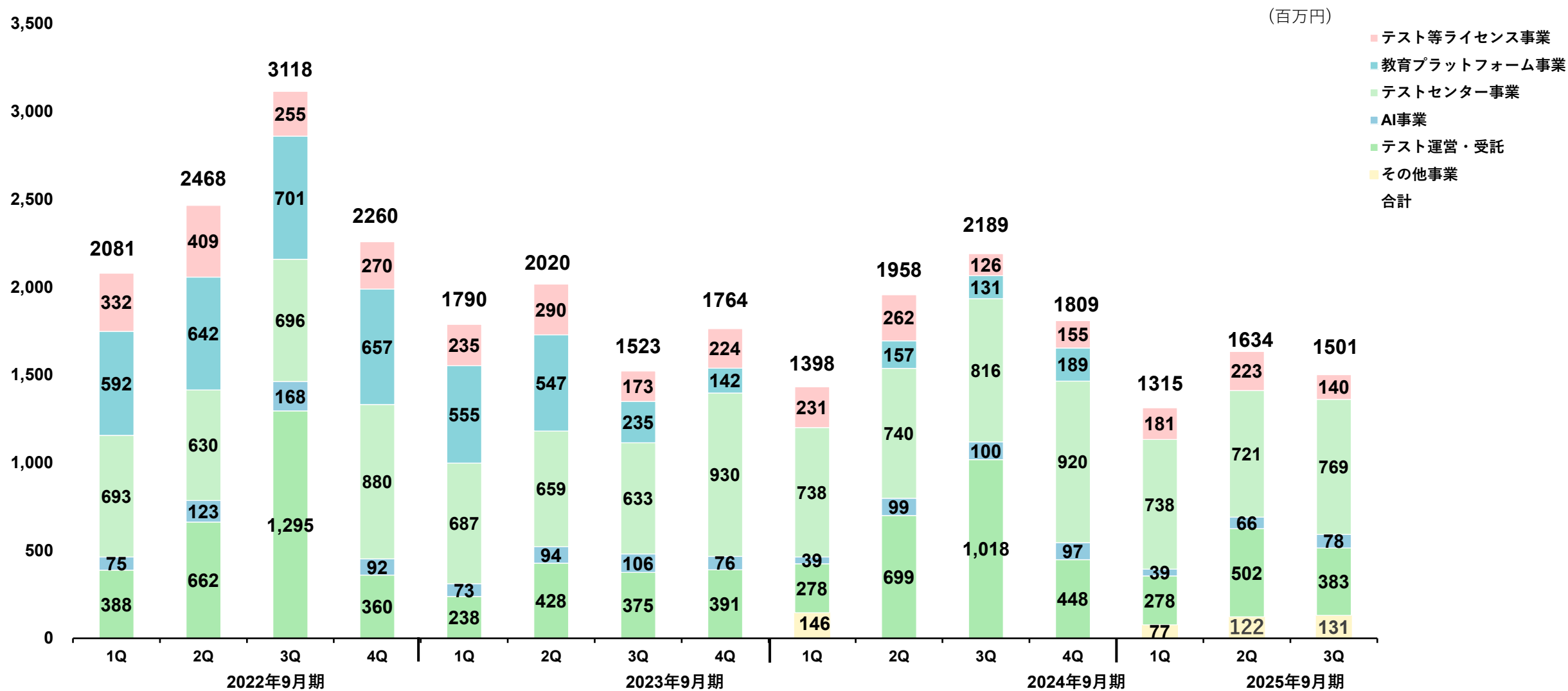
- 2022年7月29日付で株式会社増進会ホールディングスと資本業務提携契約を締結
- 各事業セグメントで複数の分科会を設け、シナジー創出に向けた協議を継続

具体的な協業の成果

- ✓ 2022年10月14日
文部科学省「令和5年度全国学力・学習状況調査を実施するための委託事業（小学校事業）」を株式会社Z会※が落札、教育測定研究所は再委託先として受託
- ✓ 2023年2月2日
横浜市「横浜市学力・学習状況調査（令和5年度実施）データ入力・処理委託」を教育測定研究所が落札
- ✓ 2023年9月27日
2023年冬より、株式会社Z会の通信教育受講者向けに、英語コミュニケーション能力判定テスト「CASEC」を提供することに合意、年間約2万人の受験者数を見込む
- ✓ 2024年3月29日
テストセンター事業の新設分割と新設会社の株式の一部譲渡及びそれに伴う株式譲渡契約（2024年7月5日、株式譲渡実行）
- ✓ 2024年9月27日
文部科学省「令和7年度全国学力・学習状況調査を実施するための委託事業（小学校事業）」を株式会社Z会が落札、教育測定研究所は再委託先として受託
- ✓ その他、他自治体での学力調査等や、信頼性の高いアセスメントの構築に向けさらなる連携を継続中

参考資料

過去の業績推移情報



*2025年9月期より教育プラットフォーム事業はその他事業にセグメント区分変更をしております。

(百万円)

事業セグメント	2022年9月期				2023年9月期				2024年9月期				2025年9月期		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
テスト等ライセンス事業	73	156	△ 4	43	△ 26	72	△ 14	49	66	97	△ 35	△ 16	25	92	50
テストセンター事業	91	△ 70	116	199	29	102	54	148	56	87	107	111	53	99	29
AI事業	△ 145	25	25	17	1	58	69	△ 14	△ 5	20	△ 6	1	△ 4	37	13
テスト運営・受託事業	△ 61	20	49	23	△ 48	44	△ 37	16	△ 4	36	119	66	△ 4	232	88
その他事業 (旧プラットフォーム事業)	132	203	213	181	119	107	△ 4	△ 104	△ 21	△ 28	△ 12	△ 25	△ 0	32	9
全社費用	△ 305	△ 367	△ 378	△ 472	△ 375	△ 299	△ 264	△ 224	△ 275	△ 289	△ 172	△ 204	△ 189	△ 202	△ 175

